

2019 年 G20 サミット教育関連イベントでの「ESD for 2030」 の立ち上げ直前記念セッションの開催について（報告）



2019年9月5日（木）、国連大学ウ・タント国際会議場において、文部科学省主催、OECD、UNESCO、国連大学共催により、『2019年G20サミット教育関連イベント「21世紀の教育政策」～Society5.0時代における人材育成～』が開催された。（資料2-2参照）

本イベントでは、「第Ⅱ部 Education for Sustainable Development for 2030」のセッションが行われた。これは、「持続可能な開発のための教育（ESD）」に関する2020年から2030年までの新たな国際枠組み「持続可能な開発のための教育：SDGs達成に向けて（ESD for 2030）」（2019年11月の第40回ユネスコ総会にて採択予定）の立ち上げ直前記念イベントとして開催したものである。

同セッションでは、安西祐一郎 日本ユネスコ国内委員会会長からSDGs達成に向けた日本の取組に関する発表が行われた後、ステファニア・ジャンニーニ UNESCO教育担当事務局長補から、2030年に向けたESDに関する基調講演が行われた。UNESCOが取り組む現行のESD実施枠組み「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」の評価や、新たな実施枠組み「ESD for 2030」の概要等が説明され、2030年に向けたESDの推進には、変容的行動が鍵であり、国内外の様々なステークホルダーとの連携が重要なことが言及された。

その後、各ステークホルダーのSDGs達成に向けた取組として、国内からは、重松雅治 麗澤中学・高等学校教務部副部長国際担当からユースの立場での発表、伊東裕 ANAホールディングス株式会社取締役常務執行役員から民間企業の立場での発表が行われた。また、国外からは、カトリン・ハンケン ドイツ連邦教育・研究省ESD課長からドイツにおけるESDの取組の発表、エリー・リカルド・ヌルザル インドネシア研究技術高等教育省企画局長からインドネシアにおけるSDGs達成に向けた高等教育施策について発表が行われた。